

第166回 医療ビジネス研究会のご案内

日本の総人口は減り続け、2048年には1億人を割り込むと云われています。年間の減少数は30万人弱と盛岡市、福島市、水戸市などの県庁所在地のある自治体の人口規模と同程度の数であります。程度の差はあるものの全国の自治体(1741の市区町村)が直面する共通の人口問題であります。

人口減少は生活関連サービスのみならず、行政や公共交通サービスの減少を招き、医療機関の経営をも圧迫し公立病院の閉鎖等、地域の福祉にも影響を与え、結果として地域コミュニティの機能低下を齎します。地域活動の低下は更なる人口流出を招く負のスパイラルに直面する事となります。

また、女性の社会進出や非婚化、晩婚化、晩産化の進展など、ライフスタイルの変化や多様化も少子化や人口減少の一因となることから、企業や行政のきめの細かい対応が急務となっています。生活者の変化に対応できるかどうか、特に福祉サービスの優劣は自治体間のコントラストを鮮明にすることから、自治体のサバイバルにも大きな影響を与えるようです。

今回は幼稚園経営に携わり、近年は園長として現場でも活動される清水氏をお招きし、経営難を克服され地域の交流拠点となる幼稚園づくりを目指す四半世紀にわたる活動を解説頂きます。脚本家・作家として活躍されている同氏が幼稚園の経営に携わるようになった経緯から、逆風の市場環境下で幼稚園の経営を立て直した話、将来進むべき新たな幼稚園創りに至る取組みを紹介頂きます。

幼少期の子どもの多くが過ごす場所として幼稚園と保育園がありますが、前者は文部科学省(学校教育法)、後者は厚生労働省(児童福祉法)が管轄し、組織目標も異なることから運営にも違いがあります。保育時間と食事は前者 4 時間(9 時～14 時頃)で給食は任意、後者 8 時間(7 時半～18 時頃)で給食は義務。利用料は前者が事業者一律に設定、後者は自治体が保護者の所得水準で設定します。

女性の社会進出の増加に伴い、親の負担が少ない保育園の人気は根強いものがありますが、入園希望者の増加に対応できないことから待機児童問題が顕在化しました。逆に、幼稚園は少子化の影響と親のニーズに十分に対応できない事から、園児が減少し経営的にも苦戦を余儀なくされてきました。変化に対応できない法制度や慣習が事業者の課題解決の障害になっている点は否めません。

直面する経営課題の克服は内在する社会問題を(相互に関連しているが故に)一気通貫に解決する事も可能のようですが、如何にしたら魅力ある幼稚園創りが出来るのか。一幼稚園の課題解決のケーススタディーではありますが、福祉事業に関わる方はもとより、事業分野に関わらず経営的課題をお持ちの方は是非ともご参加頂き、ご意見賜わりたくご案内申し上げます。

2023年9月

特定非営利活動法人 医療事業再生機構

記

- テーマ: 幼児教育現場の課題と展望 = 江の島ともだち幼稚園の事業再生現場から =
- 講師: 清水有生 氏 脚本家・作家(※)、学校法人ともだち 理事長、江ノ島ともだち幼稚園 園長
- 開催日時: 2023年10月2日(月曜日) 15:00～17:00
- ※代表作: あぐり(NHK1997)、すずらん(NHK1999)、3年 B 組金八先生(TBS2005)、プラチナエイジ(2020)、奇跡のミシン(2022)、他

以上

※ 医療ビジネス研究会に参加希望される方は受講票が必要です。